

ぶらたなす

NO.11

如月

(きさらぎ)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2025.2.27

本離れ



図書館長より

皆様、いかがお過ごしでしょうか。本はしっかり読んでいますか。現代ではデジタルの娯楽が主流になってきていますが、それらは私たちに良い影響を与えるとは限りません。それどころか、脳や体にもたらす悪影響が山ほどあります。そんな中、皆さんには本を読む素晴らしさを知って欲しいと思います。寝る前に十分ほどでも良いので、読書の時間を設けると、スムーズに入眠でき、質の高い睡眠ができます。それだけでなく、面白い本を読んでいくと、次に読みたい本がでてきて、人生に大きな楽しみができます。読書は良い影響ばかりですので、是非この機会に始めてみてください。(2-1 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『天使の耳』

東野圭吾：著
講談社

深夜の交差点で衝突事故が発生した。事故を起こしたのは軽自動車と外車だった。外車のドライバー、友野和雄と同乗者の畑山留美子は、信号が青だったと証言し、もう一方のドライバー御厨健三は死亡してしまった。果たしてどちらの車が信号無視をしていたのだろうか。死んだドライバーの妹が同乗していたが、少女は目が不自由だった。しかし、彼女は交通警察官も経験したことがないような驚くべき方法で兄の正当性を証明した。全6篇からなり、日常起こりうる交通事故がもたらす人々の運命の急転を活写したミステリー作品です。短編集で読みやすいので興味のある人は、ぜひ読んでみてください。(2-1 図書委員)

押忍！ 図書館長です。「二月逃げる」とはよく言ったもので、2月ももう、残り2日。それにちなんで、今回は、新進気鋭の漫画家・小木ハム（おぎ・はむ）のデビュー作、『2番セカンド』（光文社）を紹介しよう。

吃音を抱えた小学4年生の小倉あずきは、自分が「ふつう」でないことに苦しみ、「ぼくがいるとみんなが迷惑」すると思い込んで、不登校になる。暗闇でうずくまるあずきに、ある夜、ヒーローが現れた。プロ野球チーム・東都ナイツに所属するベテランプレイヤー、「バントの悪魔」こと、向井信次郎だ。夕食の時、あずきの父が偶然点けたテレビの中で、向井は、己に叩き付けられる野次を歯牙にも掛けず、一塁線に綺麗に転がし、勝利に貢献した。その姿に感銘を受けたあずきは、向井に手紙を認める。「どうすれば、向井せんしゅのように、強くなれますか?」。あずきの切実な問いに、向井は誠実に答えた。末筆に「いつか、一緒にキャッチボールできる日が来るといいね」と書き添えて。向井から贈られた彼の自伝、『2番セカンド』を胸に抱き、あずきは決意する。「決めた。ぼくは、向井選手みたいな、世界一の2番(わきやく)になる!」!

本作は推しどころがたくさんあり過ぎて、この小さな紙幅では、とても語り尽くせない。野球が好きな人、スポーツ漫画が読みたい人、学校の先生を目指している人、「ふつう」ではない自分に生きづらさを感じている人、そんな人を支えてあげたいと願う人……、色々な人に読んで貰いたい、掛け値なしの傑作だ。

ただし、本作を読んだからといって、例えば、吃音を抱えた人の気持ちが分かったつもりになっては、決していけない。なぜならば、君の目の前で苦しんでいるその人は、断じてあずきではないからだ。その人自身を見つめることの大切さを忘れ、「あずき」という型に嵌めてしまった瞬間、君は、その人に寄り添う資格、すなわち信頼を、永遠に失う。このことは、どうか肝に銘じておいて欲しい。